

「コロナに効果なし」に反論 次亜塩素酸水普及の有志の会

2

f

B!

6月11日（木） 15時48分 産経新聞

殺菌・ウイルス不活化効果が強いとされ、新型コロナウイルス感染拡大対策の一つとして注目される次亜塩素酸水の普及を目指す研究者ら有志でつくる「次亜塩素酸水溶液普及促進会議」は11日、東京都内で記者会見を開いた。次亜塩素酸水は新型コロナウイルスに効果がなく、空間噴霧が有害だとするような報道は「明らかな誤報」だと主張するアピールを行った。

記者会見で三重大大学院教授の福崎智司教授は空間噴霧による付着菌除去の効果を説明し、「濃度を制御して使えば人体に影響はない」と述べた。北海道大名誉教授の玉城英彦氏は、コロナウイルスへの有効性を検証中の独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）と同じ方法による実証実験の結果、次亜塩素酸水により瞬時に不活化したと明らかにし、「帯広畜産大の実験でも同様の結果が出ている」と語った。

東工大特任教授の奈良林直氏は、米国では環境保護庁、疾病予防管理センター（CDC）、海運局などで次亜塩素酸水がコロナ対策に採用され、中国国家衛生健康委員会の消毒指針は「空気や手、皮膚、粘膜」などの消毒剤として有効と記していることを紹介した。

また、普及促進会議はこのほか政府に「国民の命と健康を守るため医療機関、高齢者施設、防災避難所をはじめとする必要な箇所への次亜塩素酸水溶液の配布と備蓄を進めてもらいたい」と求めている。

この問題をめぐっては、NITEが5月29日に公表した中間報告で、有効性や安全性が確認されていないと継続検証の必要性を指摘した。これを受けて文部科学省が、児童生徒の前で次亜塩素酸水を噴霧しないよう求める通知を出すなど混乱が起きていた。